

和田知子作 「自分捜しの旅」

<前編>

(音楽) (聖歌 678 番)

女(松原ルツ) 初めに、神様がお空と地面をつくりました。それまでは、何もありませんでした。やみがあるだけでした。神様が「光よ、あれ」と言うと、光ができました。神様はその光をとてもよいと思いました。神様は、光のことを昼と呼びました。やみのことを夜と呼びました。

子供(松原あかね)ねえ、おばちゃん。あのお空は神様がつくったの？

女 そうよ。

子供 お日様も神様がつくったの？

女 そうよ。

子供 あかねちゃんの子とも？

女 そうよ。あかねちゃんだって、あかねちゃんのお母さんだって、おばちゃんだって、人間はみーんな神様につくられたのよ。

子供 神様って何でもできるの？

女 そうよ。何でもできるし、何でも知ってるのよ。あかねちゃんが、いい子にしているかな、してないかなって、いつも見ているのよ。

子供 ねえ、おばちゃん。あのお祈りのやつ、教えて。

女 あかねちゃんはお祈り好きなのね。いいわよ。「天にまします、我らの父よ。」

子供 「天にまします、我らの父よ。」

女 「願わくば、み名をあがめさせたまえ。」

子供 「…なあくば、み名をあまげたまえ。」

女 「み国を来たらせたまえ。」

子供 「み国を来らたせたまえ。」

女 「来たらせたまえ」よ、あかねちゃん。

子供 「きらたせたまえ。」

女 (エコー)「き・た・ら・せ」

子供 (エコー)「き・ら・た・せ」

(音楽) (聖歌 678 番FO)

教師 …さん。遠藤さん。遠藤あかねさん！

あかね …はっ！ はい！

教師 次のところ、読んでください。

あかねモノローグ は？ 何？ 次ってどこ？

立木有香 バカ、教科書さかさまだよ。右のページ 6 行目！

あかね イ…In the beginning God created the heavens and the earth.
教師 訳は？
あかね は？ や…訳？
有香 これ、見ていいから。
あかね …訳…は、「初めに神が天と地を創造した。」…あれ？ どっかで聞いたような。
教師 はい。じゃ次、大西さん。
大西 はい。Now the earth was formless and empty…
あかね 有香、ノートありがと。助かったよ。すごい寝ちゃった。
有香 どう致しまして。ビッグバーガーごちそう様。
あかね げっ。今月CD買っちゃってキビしいのに。
あかねナレーション わたし、遠藤あかね。「泉学園」というミッションスクールの女子高等部 2 年。一緒にいるのは親友の立木有香。そう、わたしの心の奥には、小さいころの不思議な思い出があり、時々、ふっと夢に見るのだ。

(効果音) (ハンバーガーショップの雑音)
店員 ありがとうございます。ごゆっくりどうぞ。
あかね うー。あと 2, 000 円で今月過ぎさなくちゃ。キツイなあ。
有香 ごちそう様ー。あかね、相当爆睡してたじゃん。英語の時間はヤバいから気をつけたほうがいいよ。何、またあの夢見てたの？
ナレーション そう、見てた。わたしの母は、父とは早くに離婚したそうで、父の記憶はほとんどない。わたしがまだ小さい時、事情はよく知らないが、かなり山に近いところに住む松原さんという家に何か月か預けられたことがあって、そこのおばさんにとてもかわいがってもらった。母親としばらく離れて寂しがっていたわたしに、おばさんはよく神様の話をしてくれた。この世はすべて神様がつくったこと、神様はいつもわたしたちを見ていて、悪いことをすると厳しく怒ること。わたしが夢に見るのはこの時の思い出。優しくなおばさんの顔。その度に、目が覚めるとたまらない懐かしさに襲われる。

あかね それがさ、その夢を見ると必ず流れる曲があるんだけど、それが何の曲だか思い出せないんだよね。たぶんその家でよく聞いた音楽だと思うんだけど。

(効果音) (携帯電話音)
有香 あ、携帯鳴ってる。ちょっとごめん。(間)もしもし、あ、理恵？ 今あかねと一緒にだよ。え？ 夏休みの予定？ まだ決めてないけど。えー！ ウソー！ それ本当にいいの？ あかね、今いるから話してみるよ。うん。じゃ、またあとでかけるから。(間)今、理恵からでさあ、理恵のうち、山科高原に別荘持ってるんだって。

あかね へー。すごいね。
ナレーション 電話の主は、吉沢理恵。有香と共に、わたしの無二の親友だ。

有香 それでね、今月の 28、29、30 なら使ってもいいってお父さんが言ってるんだって。ね、行かない？ 来年になっちゃうと大学受験があるから旅行なんて行かれないじゃん。

あかね んー、28、29、30…？ 別に特に予定はないと思うよ。え、山科高原？ やましな…あっ！

有香 わっ！ びっくりしたあ。何？

あかね それぞれ、山科だよ！ わたしがよく夢に見る、その小さい時預けられてた家があるのって。

有香 えー、ウソー！ じゃあもう行くしかないじゃん。何か思い出せるかもよ。その家の住所とか知ってるんでしょう？

ナレーション それが困ったことに、知らないのである。なぜか母も、その家のことにあまり触れてほしくないようで、わたしが何度聞いても、話をはぐらかしたり、急に話題を変えたりする。

有香 じゃ、しょうがない。あかねの記憶だけが頼りだ。

あかね え、…てことは…。

有香 あかねの夢の正体を探そう。行くぞ、山科へ！

ナレーション こうして、わたしたち 3 人は、山科行き of 電車に乗った。
(効果音) (電車の音。車内で会話をしている。)

有香 …てナレーション訳で、今日から 3 日間、理恵のうちの別荘を拠点に、あかねが小さい時預けられてた家を探したいんだけど、どう？

理恵 賛成！ すっごい面白そう。うちの別荘もわたしが結構小さい時に建ったし、大体毎年別荘には行ってるから、ある程度のことは分かると思うよ。で、何かその家の特徴とか覚えてないの？

あかね え…と、その松原さんの家は、お婆さんが独りで住んでたの。日曜日は教会に行ってたし、神様のいろんな話をしてくれたから、今考えるとクリスチャンだったと思う。

有香 バカ、違うよ。家の中のこと聞いても分かんないよ。外からの感じ、言ってみてよ。例えば景色とか、家の近くに川が流れてた、とか。

あかね んー、すっごく小さいときだったからなあ。…あ、でもね、その家って洋風の建物だった気がする。あ、でも違ったかな。

車掌 (フィルター音)間もなく奥山梨—、奥山梨—。

理恵 あ、もう着くよ。

あかね オーケー。

おじさん あの、さっき、確か松原さんと言ってたようだけど、あんた、もしかして、松原さんちで預かってたあかねちゃんじゃないかい？

あかね え？

ナレーション それは、同じボックスに座っていた年配のおじさんだった。

おじさん ああ、やっぱりそうだ。大きくなって。

車掌 (フィルター音)奥山科一、奥山科に到着です。どなた様も、お忘れ物のないようご注意ください。

理恵 あかね、早く、降りるよ！

おじさん 松原さんの家に行くんだろ？ 気をつけてな。

理恵 あかね、急いで！

(効果音) (発車のベル)(電車が発車する)

理恵 もう！ 冷や冷やさせないでよ。こっちは東京と違って、乗り越したら、そう簡単には戻ってこれないんだから！

あかね 悪い悪い。

有香 でも何か、すっごくいい所だね。涼しくて、空気が澄んでて、空なんか真っ青だよ。

幼児あかね (エコー)ねえ、おばちゃん。あのお空は神様がつくったの？

あかね あ、この空… 見覚えがある。

理恵 言われてみれば、同じ空でも、やっぱ東京のとは違う気がするね。

有香 よし、じゃ、マズ理恵の家に荷物を置いて、それから捜査開始だ。今あかねに話し掛けたおじさんが、松原さんの家に行くと思ったってことは、この益が最寄り駅だってことでしょ！ これってすごい手がかりだよ。

ナレーション こうしてわたしたちは、山科にやってきた。これは、友の友情に支えられた「自分捜しの旅」なのだ。今までに何度も見たあの夢は一体何なのか。必ず流れるあの曲は何の曲なのか。そしてなぜ、母がその「松原」という家のことを話そうとしないのか。この山科で、すべてが明らかになるかもしれない。わたしは、胸がドキドキ高鳴るのを覚えていた。

<後編>

女 (エコー)初めに、神様がお空と地面をつくりました。

子供 (エコー)ねえ、おばちゃん。あのお空は神様がつくったの？ お日様も神様がつくったの？ ねえ、おばちゃん、お祈り教えて。おばちゃん、どこ？ おばちゃん！

(音楽) (聖歌 678 番)(FO)

理恵 ね、あかね、あかねってば！ もう起きてよ。

あかね …あ、おはよう。

あかねモノローグ そうか。わたしたちは昨日から、ここ山科にある理恵の別荘に来ていたんだっけ。わたしが小さいころ、家の事情でしばらく預けられていた松原というお宅が、ここに近いらしいことが分かって、この周辺の景色に見覚えがないか、昨日は

随分歩いて回った。でも結局、それらしき家や景色は見当たらなかった。

あかね (エコー) えっと、その家はおばさんが独りで住んでたの。日曜日には教会に行ってた。…その家って洋風の建物だった気がする。

有香 あかね！ 教会だよ！ 教会！ その洋風の建物って、松原さんが通ってた教会なんだよ、きっと。そこ行ったら、何か分かるかもしれない。

理恵 & あかね あ、そうか！

ナレーション わたしたちは、朝食もそこそこに済ませ、さっそく電話帳で教会を調べた。

有香 あった。しかもこの町には教会が1軒しかない。「山梨教会」、山梨町、中央1646-2.

理恵 ここは昨日行かなかったところだ。ちょっと歩くには遠いよ。どうする？ タクシー呼ぶ？

有香 そうしよう、すぐ出発しよう。

ナレーション わたしたちは、駅まで歩いて、タクシーを拾うと、教会の名前を告げた。

(効果音) (タクシーの車内)

運転手 山科教会ねえ。あんたたち、教会に用事でわざわざ東京から来たのかい？ うん、あそこはいい教会だよ。うちのせがれも、小さい時、あそこの教会学校に通っていたんだよ。わたしも世話になっている手前、それ以来時々は顔を出してんだけどね。いやあ、東京に出ていく人間は多いけど、教会訪ねて東京からなんて人は、まずいないねえ。あ、そう言えば、大分前にいたよ。あんまり珍しいんで覚えてる。うちの子が5歳くらいの時かなあ。ちっちゃな娘を連れた夫婦でさ、何でも離婚調停中で、借金取りにも追われてるってんで、娘をしばらく預かってってくれて来たらしいんだ。何でこの町に来たのかまでは知らないけど、もう全く見ず知らずの子だよ。“教会に行けば”と思ったのかもしれないけど、そりゃムチャだよ。ところが牧師さんから話を聞くと、“わたしが預かってもいい”って人が現れたんだ。子供ができないまま、だんなに死に別れて、寂しかったんだろうなあ。

あかね あの、その人って、何ていう名前でした？

運転手 確か松原さんというんだ。松原ルツさん。

有香 & 理恵 あかね！！

運転手 そうだよ、その子は確かあかねっていった。じゃあんたがあの中の女の子かい？

あかね それで、その子は…わたしはどうしたんですか？

運転手 ああ、松原さんに引き取ってもらって、本当にかわいがられてたよ。ところがある日、大人たちがちょっと目を離した隙に、教会の2階の窓から見を乗り出して落っこちたんだ。ちょうど下の庭にいた松原さんが、みんなの悲鳴を聞くと、とっさに横っ飛びに飛び出した。そしてその子をしっかりと抱えると、コンクリートの花

壇に仰向けに倒れこんだんだ。

有香&理恵

その子は？

あかね

おばさんは…どうなったんですか？

運転手

あかねちゃんは、かすり傷一つなかった。だが松原さんのほうは命こそ助かったけどね、無理な体勢で下敷きになったもんで、脊椎をダメにしちゃってさ。車イスだよ、それからずっと。なのに言っちゃ悪いがあんたの親ときたら、ろくにわびもしないでさっさと子供を連れて帰ったっていう話だよ。そりゃないと思うけどね。はい、着きましたよ、山科教会。

あかね

あ、あの、その松原さんは、今どこに？

運転手

ああ、確か隣町に引っ越してったよ。ここの牧師さんに聞いてみるといい。あんたの姿を見たら、喜ぶと思うよ。じゃ。

(効果音)

(タクシーの走り去る音)

理恵

あかね。しっかりして。ほら、もう着いたんだから。

あかね

(泣きながら)わたし、知らなかった。…そんなこと、…知らなかったよ。うちの親、そんな話、全然してくれなかった。

有香

言いにくかったんだよ、きっと。

あかね

言いやすいとか、言いにくいとかの問題じゃないよ！ おばさんは、あの優しくかったおばさんは、わたしを助けたために一生不自由しなくちゃならないんだよ。こうしている間にも、おばさんは車イスに乗ってるんだよ！なのに、わたし、何も知らなかった。…優しくかったおばさんの記憶しかなかった。うちの親、卑きょうだよ。自分たちの都合で勝手にわたしをよそに預けておいて、問題が起こったからって逃げたんだ。そしてさっさと別れて…。お母さんはそんな大変なこと、今までずっと秘密にして。今度だって、わたしが山梨に行くって言っても、何にも言わなかった。今にして思えば、何かすごく苦しそうな顔してたけど、だったらあの時打ち明けてくれたっていいじゃない。

理恵

だけどそれはしょうがないよ。

あかね

じゃあ、どうすればいいの？ 松原さんに会えたら、何て言えばいいのよ！「わたし、何にも知りませんでした」って涼しい顔してればいいわけ？

有香

とにかく、教会に着いたんだから、真相はそこで確かめよう。ね、さ、あかね立って。

ナレーション

こうしてわたしたちは、その教会の牧師さんに会った。牧師さんは初めて会ったわたしの話を、じっと最後まで聞いてくれた。

(効果音)

(コーヒーをカップに注ぐ音)

牧師

なるほどね。それはさぞつらいことでしょう。それにしても、本当によくここを訪ねてくださいました。

有香

牧師さんは、その事故はご存じなかったんですか？

牧師 ええ。わたしは昨年の春にここの教会に赴任してきたので、それ以前のことは直接は知らないんです。でも、その事故の事は聞いてましたよ。あかねさんがここの教会にいらしてたことは、間違いありません。松原さんは、つい先日までこのすぐ裏に住んでたんですよ。でもここはちょっと交通の便がよくないので、病院に通いやすい隣町に引っ越されました。今も日曜に礼拝にはいらっしやいますよ。

有香 よかったね、あかね。

理恵 ここだったんだね、夢に見てたのは。

牧師 それにしても、あかねさんは当時3歳だったと聞いています。よく覚えてましたね。子供の吸収力と記憶力は、本当にすごいと思いますよ。松原さんがあかねさんにされたお話は、間違いなく聖書のお話です。ところで、あなたがたは、聖書をご存じですか？

理恵 & 有香 いえ。…ハハハハ…あまりよくは…。

牧師 では、イエス・キリストという方は？

有香 あ、知ってます。確か、クリスマスの時生まれて、十字架で死んで、生き返ったんですよ？

牧師 そうです。ではなぜイエス・キリストが十字架にかかったのか、ご存じですか？

3人 …

牧師 それは、わたしたちが罪を犯したからなんです。わたしたちはもともと…(松原ルツの声に変わる)

松原ルツ (エコー) 神様につくられたのに、人間は神様の言うことを聞かないで、悪いことをいっぱいするようになってしまったのよ。それで、「神様なんているもんか」って神様を信じなくなってしまったの。神様はそれをとても悲しんで、とても怒ってるの。悪いことをした人はね、必ず神様に怒られるのよ。でもね、イエス様が、悪いことをした人全部の身代わりになって、神様に怒られてくださったの。

牧師 それが十字架なんです。わたしたちは、本来、自分の犯した罪のために死ななくてはならないのです。しかし、イエス・キリストは、わたしたちの代わりに、その罪を負って死んでくださったのです。…松原さんは、ご自分の体が不自由になったことを、一度も悲しんだことはないそうです。あかねさんの両親が何のおわびもなく逃げてしまったことを、一度も恨んだことはないそうです。それは、わたしたちのために、死んでくださったお方を知っているからです。…あかねさん、あなたのお母さんに対する憤りは、よく分かります。でも、今までほかのだれよりも苦しんできたのは、お母さんかもしれせんよ。他人を攻める前に、自分のことをよく見詰めて、自分のために死んでくださった方のことを考えてみてほしいのです。人は、赦されて、初めて赦すことができるんですよ。

(音楽) (聖歌678番)

あかね
牧師 あ、この曲、この曲です。夢に出てくる曲。

 ああ、これは「聖歌」というか集の中の曲です。「天の神様、お父様…。」「主の祈り」という、イエス様が教えてくださった祈りを、子供にも分かるような言葉にして、メロディーをつけたんです。松原さんは、今もよくこの歌を教会の子供たちと歌っていますよ。

(音楽) (聖歌678番)

ナレーション 涙が、不意に込み上げてきた。記憶にはなかった、松原さんの腕の中に、しっかりと抱き抱えられた時の感触が、まざまざとよみがえる。あの人のお陰で、今、わたしが生きている。…生かされている。それは、この 17 年の生涯で、一度も味わったことのない感動だった。松原さんに会えたら、どう言おう。どんな顔をしよう。ううん、そんなことはいい。何も言えなかったら、ただしがみ付いて、思いっきり泣けばいい。そこから、わたしの新しい歩みが、きっと始まるのだ—。

(完)